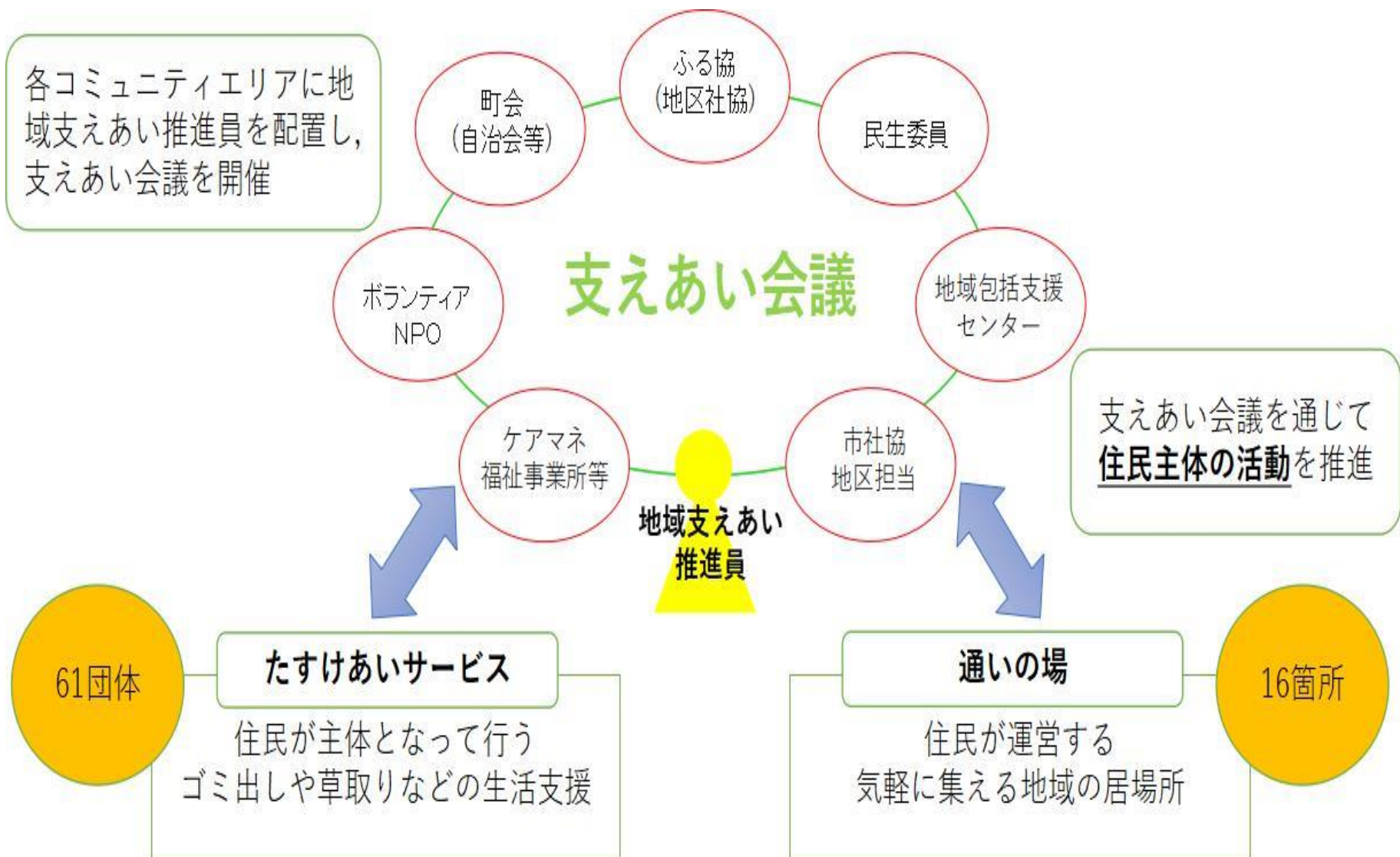


支えあい活動の事例について

柏市における支えあいの取り組み



柏市の支えあい活動の事例（西原地域）

(1) 西原地域

人口・世帯数	約17,200人／約7,400世帯
高齢化率	約30%
活動の生まれた背景	支えあい会議を通して、西原地域でもたすけあい活動は必要という意見が出され、委員の機運が高まった。
活動の生まれた経過	・支えあい会議での議論を経て、H28年度に地域内で支えあい活動のアンケート実施。・アンケートで協力の申出があった方を対象に説明会開催。・H29年度に、町会単位の立ち上げを目指した準備会を開催し、15町会中、5町会で生活支援（たすけあいサービス）の立ち上げ。・また、地区懇談会での居場所づくりの議論から、地域内福祉施設の協力申出があり、H30年6月から週1型の通いの場を開設。
活動概要	入会金 500円 ・ゴミだし1回50円
成功理由	町会と連携しながら、地域住民が主体で運営を担っている為。
課題	なかなか利用に繋がらない為、協力員のモチベーションの維持が課題。

柏市の支えあい活動の事例(風早南部地域)

(2) 風早南部地域

人口・世帯数	約22,700人／約9,400世帯
高齢化率	約23%
活動の生まれた背景	風早南部地域には住民主体のたすけあい活動がなく、将来に向け不安があった。
活動の生まれた経過	・支えあい会議での議論を経て、H28年度に地域内で支えあい活動のアンケート実施。・地域内の各区単位で説明会を開催。・H28年度に、高柳区で生活支援（たすけあいサービス）を立ち上げ。・H29年度に、更に生活支援の立ち上げが進み、4区1自治会中、2区1自治会で活動。
活動概要	入会金500円　　ゴミだし1回50円　　等
成功理由	住民主体の運営である為、やらされ感ではなく自らの意思で活動を楽しんでいる。
課題	協力員が高齢であることから今後の組織の在り方として、次の世代をどう巻き込むかが課題

支えあい活動の事例（千葉市）

(1) 千葉市幸町1丁目

人口・世帯数	約8,000人／約3,400世帯
高齢化率	約42%
主な活動組織	幸町1丁目コミュニティ委員会（町づくりの実働部隊）
活動の生まれた背景	・交番，公民館，コミュニティ施設，スーパーが地域内になかった。 ・イベントの運営や町づくりを行う「コミュニティ委員会」が存在していた。
活動の生まれた経過	コミュニティ委員会の活動がイベント中心から日常の町づくりに移行し，路上喫煙防止・ポイ捨て禁止運動に取り組んで成功したことが町づくり活動のきっかけになった。
主な活動	コミュニティ委員会による主な町づくり・安心サポートの会（高齢者の生活支援）・金曜ふれあい市（買い物難民向けに朝市を開催）・人生万歳（高齢者の経験を活かした学校支援）・ふれあい交流館（地域の居場所の創出）・ふれあい交流館で「介護と福祉の相談会」を開催 等々

支えあい活動の事例（鶴ヶ島市）

(2) 埼玉県鶴ヶ島市鶴ヶ島第二小学校区

人口・世帯数	約7,200人／約3,200世帯
高齢化率	約30%
主な活動組織	NPO法人鶴ヶ島第二小学校区地域支えあい協議会
活動の生まれた背景	小学校区内の10自治会が主体となり構成された地域防災組織が存在していた。
活動の生まれた経過	・社会福祉協議会が実施したアンケートを機に「鶴ヶ島第二小学校区地域支えあい協議会」を発足した。・活動が広がりに応えるため平成25年にNPO法人化した。
主な活動	自治会だけでは取り組むことが難しい部分を他団体と連携し、活動している。・防災訓練（行政、大学、医師会等と連携）・宿題サロン、子育てサロン、子育て支援講座・行事・助け合い隊（生活支援）・eコラボつるがしま（環境保全事業）・鶴二あんしんあったか地域ネット（ケアの連携）等々